

5. 科研費トピックス

平成24年度科研費(補助金分・基金分)の配分について(第2回)を公表しました。

平成24年度科研費(補助金分・基金分)について、平成24年6月4日に報道発表を行った配分結果に、それ以降に交付内定を行った「特別推進研究」(新規分)、「新学術領域研究(研究領域提案型)」(新規分)、「基盤研究(S)」(新規分)、「研究活動スタート支援」(新規分)、「特別研究員奨励費」(1回～3回、新規分)の配分結果を加えて10月26日に公表しました。

新規研究課題については、約9万6千件の応募に対し約2万9千件を採択し、採択率30.2%、総額約7百5億円となりました。

区 分	研究課題数			配分額 (百万円)	1課題あたりの配分額	
	応募件数(件)	採択件数(件)	採択率(%)		平均(千円)	最高(千円)
新規採択のみ	(99,139)	(30,010)	(30.3)	(74,729)	(2,490)	(146,300)
	96,293	29,044	30.2	70,472	2,426	152,500
新規採択+継続分	(140,831)	(71,650)	(50.9)	(166,054)	(2,318)	(213,000)
	143,623	76,212	53.1	171,580	2,251	159,200

※配分額は直接経費 ※()内は前年度を示す。

※基金化及び一部基金化した研究種目については、平成24年度の当初計画に対する配分額を計上している。

※「新学術領域研究(研究領域提案型)」「生命科学系3分野支援活動」、「特別研究促進費」及び「特定奨励費」を除く。

詳細なデータについては、下記のホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1327253.htm

平成25年度科学研究費助成事業公募要領等説明会を実施しました。

平成25年度の科学研究費助成事業の公募に当たり、9月6日から9月13日にかけて、全国8会場で、「平成25年度科学研究費助成事業公募要領等説明会」を文部科学省と日本学術振興会が合同で開催しました。

本説明会には、のべ2千人以上の方にご参加いただき、科学研究費助成事業の概要、公募要領、研究費の適正な執行等について説明を行うとともに、今年度より、主に初めて科研費の応募に係る実務を担当される方を対象に、応募の流れや科研費電子申請システムの操作について基本的な仕組みを理解していただくための時間を設けました。

当日の資料については、下記のホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1325861.htm

日本の科学技術の状況変化についての研究者・有識者に対する意識定点調査の結果について

日本の科学技術やイノベーションの状況変化を把握するため、科学技術政策研究所により、産学官の研究者・有識者に対する意識定点調査が実施(2011年度～2015年度の5年間に渡って実施する調査の1回目)され、調査結果が公表されています。

▲「科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2011)」[NISTEP REPORT No.150, 151]の結果公表について(<http://www.nistep.go.jp/archives/4508>)

科研費制度についても下図のとおり調査結果が公表されています。指数については、3.5～4.5は不十分な状況であり、4.5～5.5でほぼ問題はなく、5.5を超えると状況に問題はないことを示しています。

①科学研究費助成事業における研究費の使いやすさ(Q1-19)については、ほぼ問題ないとの認識が示されています。ただし、大学部局分野によって状況が異なり、農学や保健では、使いやすさとの認識が相対的に小さくなっています。部局による運用の違いが、使いやすさについての認識に違いをもたらしている可能性があります。

②研究費の基金化は、研究開発を効果的・効率的に実施するのに役立っているとの認識が、全ての属性において示されています。指数値は大学で7.1ポイント、公的研究機関で6.7ポイントであり、定点調査の質問の中で一番高い指数値となっています。限られた科学技術予算を有効活用する為に、研究の効率性を高める必要があるとの認識が「科学技術予算等の状況」の自由記述でも多数見られています。基金化は研究費を有効活用する手段として多くの教員や研究者から歓迎されていることが分かります。

科学研究費助成事業(科研費)にかかわる調査結果

問	質問内容	大学	公的研究機関	民間企業等	大学グループ別				大学部局分野別			
					第1グループ	第2グループ	第3グループ	第4グループ	理学	工学	農学	保健
Q1-19	科学研究費助成事業(科研費)における研究費の使いやすさ	4.5	4.7	—	4.7	4.3	4.8	4.5	5.0	5.1	4.1	3.8
Q1-20	研究費の基金化は、研究開発を効果的・効率的に実施するのに役立っているか	7.1	6.7	—	7.8	6.8	7.0	7.1	8.0	7.0	6.7	6.9

注1: 大学・公的研究機関グループにのみ質問を行ったので、民間企業等の集計は空欄となっている。

本調査によって、科研費制度は研究者・有識者から高い評価を得ていることが分かりましたが、審査制度や研究費の使いやすさの改善については今後も重要であると考えており、引き続き制度の改善を図っていきます。

優れた審査を行った審査委員を表彰

日本学術振興会の学術システム研究センターでは、科研費の審査結果の検証を行い、翌年度の審査委員の選考に適切に反映させています。

このたび、平成24年度の審査を行った第1段(書面)審査委員約5,000名の中から模範となる審査意見を付していた審査委員115名を選考し表彰しました。

表彰については、本会のホームページ等を通じて公表するとともに賞状と記念のメダルを贈呈しました。

【掲載ホームページアドレス】

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/hyousyou_2012.html

平成25年度ひらめき☆ときめきサイエンスの実施プログラムを募集

募集内容、応募手続きについては、募集要領をご覧ください。

【掲載ホームページアドレス】

<http://www.jsps.go.jp/hirameki/boshu.html>

募集の概要

I.事業の趣旨・目的 本事業は、我が国の将来を担う児童・生徒を対象として、研究者が科研費による研究成果を基礎としながら研究の内容について分かりやすく説明することを通じて、児童・生徒の科学的好奇心を刺激し、心の豊かさや知的創造性を育み、学術の文化的価値及び社会的重要性について示し、もって学術の振興を図ることを目的としています。

II.応募資格 これまでに、科研費の研究代表者として研究を実施したことがある研究者が所属している大学及び大学共同利用機関等の機関とします。

III.募集するプログラム 以下の項目をすべて満たすプログラムを募集します。

- 1) 小学校5・6年生、中学生及び高校生のいずれかを対象とすること。
- 2) 科研費の成果の基礎をより分かりやすく、おもしろく伝える内容であること。
- 3) 機関の組織的な取り組みとして行われること。
- 4) 平成25年7月下旬～平成26年1月下旬に開催されること。

